



月



【月の文学館】

芳田尚哉

月のような彼女

「彼女って月みたいだね」

友人が唐突にそんなことを言った。ミートボールをもぐもぐしていた私は、なんのことかわからず一瞬フリーズした。

「なに、唐突に」

ミートボールを飲み込んでから訊く。

「いやほら彼女よ彼女」

くいくいと箸で、離れた場所で若い男子社員と楽しそうに話をしている同僚女性を指す。無作法だなとかツッコむ気は毛頭ない。

「月みたい……ねえ」

取り立てて美人というわけではないが、いつも笑顔で誰とでも親しげに話すし気も利く。男に好かれる要素としては充分だろう。かと

いって、別段女子社員から嫌われているというわけでもない。

「そう、月みたいでしょ」

力強く断言される。

月みたいか……。

清楚な雰囲気ってことなのか？ 月のイメージといえば清純とかそういう感じなんだけど、彼女がそうかと言われると疑問だ。

どちらかといえば太陽のように朗らかで明るい。

そもそも噂話に興味もないし、女同士の悪口大会なんか面倒でしかないが、これに関してはそういう雰囲気じゃないみたいだ。

「ほら、ああいうとこ」

さっきまで唐揚げを食べていた彼女は、その箸でまた件の彼女を指す。行儀悪いとか言うべきかな……と思いながらその先を見ると、

彼女は課長と楽しそうに話している。

誰とも楽しそうにしているのはいいことじゃないか。

「月ってさ、いつも同じ面しか見せてないんだって」

「へえ、そうなんだ」

それは知らなかった。でも、よく考えたらあのウサギの面しか知らないや。

「あの子もさ、裏がどうなってるかわかんないよね。いっつも上っ面だけ。本当に月みたい」

ああ、そういう意味か。

結局悪口か。

でも、なんて風流な悪口か。

ちょっとだけ感心しながら、おにぎりをほおぼる。あ、梅がすっぱい。

F i n o .

月 【月の文学館】

<http://p.booklog.jp/book/118055>

著者：芳田尚哉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/studiosaix/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/118055>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト